おとなのこくごきょうしつ (3)

かくことのすすめ (三)

しょう説みたいなのを書いて、ひとり悦に入ってみませんか、簡単なんです。

書き出せばいいのです。

「佐渡が近くなると寺泊に秋が来る」私が寺泊で、しょう説みたいなものを書こうとしたときの書き出し文です。

ある日、唐突に、小佐渡の民家が寺泊から識別できるまでに空が澄む。海辺で暮した者でないとこの鮮烈な感情は実感できない。

結末の部分は「落日がギシギシ軋みの音をたてながら佐渡の海へ落ちていった」としたい。

私が書き出しに執心するのは、丹羽文雄の「創作作法」を読んでからだが、直接には、幸田文の「明治三十七年九月一日、暴風雨のさなかに私が生まれたのだ」といふ」の書き出しを読んだからである。

結末の文章は、林芙美子の「うず潮」の末尾「うず潮は昏く流れている。速度も見えぬながら、只海鳴りの音を立てて、はてしもなくうず潮は流れているのだ……」に似せてみた。

かように始めと終わりが出来はしたが、肝心かなめの人物も、背景もドラマもまだ考えていない。だから掌篇・短篇・中篇いずれのかたちもまだまとめていない。それでいいと思う。取材帳にずっと寝かせておけばいつの日か、日の目もみよう。

人生、最初と勘定時の帳尻りさえ合っておれば、途中の曲折はむしろ歓迎されようというもの……道を歩いている時、きっ茶店で彼を待ちわびるいっとき、ビロウな話だがおといれの密室で、書き出しと結末が決ったのだから、あとは豊かな創意をめぐらせて縦横に物語を展開していけばいい。

文中、私は、と書いたところを、醇子は、と書き直し、主人は、と書いたところを、啓介は、と第三者名を付せば格好よくなる。

公園で待ちボケくわされた昔のことを思い出して、場所を寺泊灯台の丘とすればいいし、会話も、彼にいいそびれたことを、誰憚ることなく主人公の醇子に言わせればいい。

かまうことない。しょう説だもん「うそ」というワサビがきいていればこそ、盛付け味付けの変化妙味が生まれてくるのだ。「でもカケナーイ」変な声が二小のスダのところまで聞こえて来ましたゾ。

何言っていらっしゃる。小学校三年生に、兎と亀の後日譚を書かせたら、それは物語がいっぱい出来ました。

それは多彩な

「マラソンの部でいちやく動物村のチャンピオンになったかめ君は、こんどは新津市民マラソン大会に、代表として出場することになりました」

などなど、子ども達すらこれくらいの豊かな創作力をもっています。おとなのこくごきょうしつ読者陣、考えの動脈硬化などおこさず、天馬空とはいかぬまでも、わたしにも、しょう説が書けたと、ほくそ笑むことにしようではありませんか。

（須田英夫）

施設めぐり参加者募集
新図書館も日程に

市役所のしごとを、あなたから直接たしかめてもらうため、市では、次の要領で「施設めぐりと市長懇談会」を開きます。

今回の施設めぐりは、七月オープン予定の「図書館・視聴覚センター」を見学日程に入れたほか、し尿処理の〝現在〟と〝未来〟を見くらべてもらうため、いま工事中の「終末処理場」も見学日程に組んでいます。

また、給食センターでは、参加者のみなさんから給食を試食してもらうことも計画しています。お友だちを誘い合わせて、ぜひご参加ください。

♡とき…五月十六日（火）午前九時三十分から午後三時まで

♡見るところ…廃棄物処理センター第二工場（し尿処理場）、終末処理場、西部地区学校給食共同調理場（給食センター）、図書館・視聴覚センター

♡募集人員…二十五名

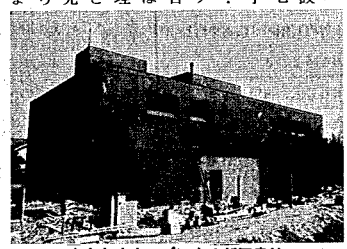
♡申込み…五月十日（水）までに、電話で市役所企画室（☎四―二一一一・内線二三七）へお申込みください。

♡その他

●参加者は午前九時二十分までに市役所正面玄関前へお集まりください。

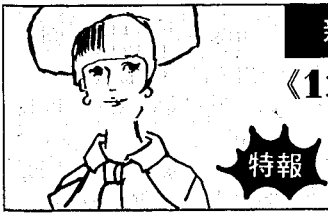
●中食はこちらで用意しますので、持参する必要はありません。

市長懇談の時間も用意してあります



まもなくオープンする新図書館

―お買物、ご用命は市内で―



新入生募集　―― 文化式洋裁専門教室 ――

《1対1》の徹底した個人指導！（多忙な方へファミリーカード新設）

昼・夜間部　すみれ服装教室　（下越病院横）吉岡町7―13　(2)5949

特報　縫製部新設！

春の装いにご利用下さい。　問い合せ ☎ (2)2230